

愛称理由

管理番号	愛称候補	愛称（ふりがな）	愛称の理由
1	かぎやん	かぎやん	子育てひろばの愛称として、「かぎやん」を提案します。 この愛称には、新たに子育てひろばが設置される伊加賀東町周辺の歴史や文化を大切にしながら、地域の人々、特にこれから子育てを担う親子に長く親しまれる場所になってほしいという願いを込めています。 「かぎやん」は、枚方の歴史を代表する存在の一つである「鍵屋」に由来する名称です。 枚方は古くから淀川の水運によって発展し、京と大坂を結ぶ交通の要衝として、多くの人々が行き交うまちでした。江戸時代には枚方宿が宿場町として栄え、淀川を行き交う船とともに、人や物、そしてさまざまな文化がこの地域にもたらされました。 鍵屋は、そうした枚方の歴史と深く関わる存在です。多くの人々が立ち寄り、休息し、交流した場所として、現在も枚方の歴史や文化を語る上で欠かすことのできない存在となっています。 今回、子育てひろばが設置される伊加賀東町は、こうした歴史的・文化的背景を持つ地域に位置しています。そのため、この地域に新しく生まれる施設の愛称には、単に語感が良い名前だけではなく、その土地ならではの歴史や文化とのつながりを感じられるものがふさわしいと考えました。 そこで、地域にゆかりの深い「鍵屋」を名称の由来とし、子どもから大人まで気軽に呼べる、ひらがな4文字の「かぎやん」としました。 子育てひろばは、親子が遊ぶ場所であると同時に、地域との新たなつながりが生まれる場所でもあります。 子育て中には、「誰かと話したい」「子どもと一緒に気軽に出かけられる場所がほしい」「地域に知り合いがほしい」と感じる場面があります。特に、身近に頼れる人が少ない子育て世帯にとって、気軽に立ち寄り、人と出会い、相談や交流ができる場所は、子育てを支える大切な存在になると考えます。 かつて「鍵屋」が、淀川を行き交う人々を迎え、多くの人が集う場所であったように、新しい子育てひろば「かぎやん」もまた、地域の親子を温かく迎え入れ、人と人との出会いやつながりを育む場所になってほしいと考えました。 また、「鍵」という言葉には、扉を開くためのものというイメージがあります。 「かぎやん」が、親子にとって新しい出会いへの扉を開く場所になること。子育てを通じて地域とつながるきっかけになること。そして、子育ての悩みや不安を抱えたときにも、「ここへ行ってみよう」と思える安心できる居場所になること。そうした子育てひろばの役割と、「かぎ」という言葉が持つイメージは重なります。 さらに、「かぎやん」という名称には、愛称としての使いやすさという点でも大きな魅力があります。 正式名称ではなく愛称だからこそ、地域の人々の日常会話の中で自然に使われることが重要だと考えます。 「今日は、かぎやんに行こう」 「かぎやんで遊ぼう」 「かぎやんでお友達ができた」 このように、子どもにも覚えやすく、保護者や地域の人々にも呼びやすい名称であることは、施設が地域に定着していく上で重要な要素です。 また、「鍵屋」という歴史的な名称をそのまま用いるのではなく、あえて「かぎやん」とひらがなで表記することで、歴史的な背景を受け継ぎながらも、子育てひろばらしい柔らかさや親しみやすさを表現できると考えました。 地域の歴史を知る大人にとっては、「鍵屋」や枚方の歴史を思い起こすきっかけとなり、子どもたちにとっては、安心して遊び、成長していく身近な場所の名前になる。そのように、「かぎやん」は世代によって異なる親しみ方ができる名称でもあります。 また、子どもたちが成長し、いつか自分が暮らす地域について学んだとき、「自分が小さい頃によく遊んだ『かぎやん』という名前には、こんな歴史的な由来があったのだ」と、地域への関心や愛着につながる可能性もあります。 新しい子育てひろばは、単に新しい施設をつくるだけではなく、これからこの地域で子どもを育てる人々の新たな交流拠点をつくることでもあります。 かつて、多くの人々が行き交い、出会い、交流を生み出してきた枚方の地域性を受け継ぎながら、これからは子どもたちや子育て世代を中心とした新しいつながりを生み出していく。 「かぎやん」という愛称には、そんな枚方の歴史と未来をつなぐ場所になってほしいという願いを込めています。 地域に根差した歴史的な背景を持ち、子どもから大人まで覚えやすく、日常的に呼びやすい。そして、かつて人々を迎え入れ、交流を生み出した「鍵屋」のように、これからは地域の親子を温かく迎え、新しい出会いとつながりを生み出していく。 地域の歴史を未来へ受け継ぎながら、すべての親子に開かれた温かい居場所となることを願い、「かぎやん」という愛称を提案します。
2	くらわん！パーク	くらわんぱーく	枚方、特に枚方公園の近辺では馴染みのある「くらわんか」という言葉と、子どもが元気に楽しく遊ぶ様子をイメージした「わんぱく」、枚方公園の公園＝「パーク」、ひからパークや元の施設サンパークなど馴染みのあるワードを掛け合わせました。 枚方市のキャラクターのくらわんこと、枚方公園とひからがパークのパークを組み合わせました。 「くらわんか」は、枚方宿の歴史を知る上で重要な言葉なので、この言葉を浸透させることで、子どもたちに枚方市に愛着をもってもらえるように。 くらわんか花火大会もメジャーになってきて、「くらわんか」の言葉だけが独り歩きしているように感じるので、枚方市に住む子どもたちにはその意味を知ってもらいたいし、他市に住nder友達にも伝えていってほしいと思ったからです。
3	coco ひらかた	ここ ひらかた	フランス語で子供の愛称に使われたり、心を意味したり居場所の「ここ」と色んな意味があるので。呼びやすく通称ここひらと呼んでも良さそう
4	COCOHIRA	ここひら	COCO（ここ）はフランス語で小さな子供に使われる。また、心という意味や「ここ（子供の居場所）」呼びやすく可愛いのでこの名前がいいかなと思いました
5	さんさんパーク	さんさんぱーく	長年親しまれたサンパークのイメージは強いと思うので、その名も大切に残しつつ、パワーアップしたイメージで名付けてみました。 お日さま燦々と輝くように、誰もが集う、明るいひろばになればいいな、と思います。 旧サンパークの跡地の施設ということで、地元民として馴染み深い以前の名称を基にして、より明るく楽しい場所になることを願って。
6	つどわんか	つどわんか	孤独な子育てにならないように、そこに集えば 人とつながれて 相談できるんだとわかりやすく伝わればと願って。
7	にこっと	にこっと	子ども・子育てで交流ひろばに来られた親子が帰るときには、にこっと笑顔になって帰る施設になれば良いな～との思いで考えました。
8	ひらっこ	ひらっこ	枚方市の子育て・子ども、開かれた枚方市の子育て環境の中で子どもを真ん中に社会に、日本に、世界に広がっていく【開かれていく】子どもを育む施設になってほしい願いをこめました。「枚方市」「子ども」「子育て」をかけ、言いやすかつ覚えて貰いやすく、可愛い響きで愛嬌があるのではないかと考えています。
9	ひらりん	ひらりん	小学2年生のこどもが考えました。 「ひらりん」は、「枚方」の“ひら”に、子どもたちが元気に、軽やかに成長していく「ひらり」というイメージを組み合わせた名前です。 周辺には光善寺駅前の「ひらら」や「ひらパー」など、市民に親しまれている愛称があり、「ひらりん」も枚方らしい親しみやすい名前として、多くの人に覚えてもらえんと考えました。 また、「ひらりん行こう！」と子どもから大人まで呼びやすく、子どもたちが笑顔で集まり、遊び、親子や地域のつながりが広がる場所と連想できると思います。 子どもたちが未来へ「ひらり」と羽ばたき、たくさんの笑顔が集まる施設になってほしいという願いを込めました。
10	わん！パーク	わんぱーく	枚方公園の「公園」＝パークと「わんぱく」を組み合わせました。ひらかたパークや元あったサンパークなどから「パーク」はこの近辺に馴染みがあること、わんぱくは子どもが楽しく元気に遊べる施設であることをイメージしました。 「わん」はoneともかけていて、色々な人が1つの施設に集まり、1つのコミュニティができる、そんな場所になれば良いなという思いも込めました。